令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和８年４月１４日（火）

2　調査対象　　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容
教科に関する調査
→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

学校名　品川区立浅間台小学校

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

教科	国語

品川区立浅間台小学校

【第2学年】

1　概要		基礎：目標値81.0%　校内平均78.3%　活用：目標値56.3%　校内平均60.2% 話を聞き取ったり、説明文を読み取ったりすることができている。
2　課題と取組	①課題	情報同士の関係性の理解や、場面の様子や登場人物の行動の大体を捉え、登場人物の行動を想像することに課題がある。
	②原因	目に入った情報や、一部の情報のみを捉えて考えている。どの人物の視点かを整理せずに想像している。
	③方策	情報を読み取る学習では、必要な情報とそうでない情報を整理する。物語文の学習では、どの人物についてのことなのか整理する。整理する際には、色分けなどをして視覚的に理解できるようにする。

【第3学年】

1　概要		基礎：目標値79.0%　校内平均73.9%　活用：目標値56.9%　校内平均53.6% 漢字を読む力や文章を書く力が特に目標値を下回っている。一方、話し手の話に関心をもち、質問する力が伸びている。
2　課題と取組	①課題	漢字を正確に書いたり、問題文を正確に読み取り、問われていることを把握したりするなど、読解力や情報処理力に課題がある。
	②原因	問題文を最後まで読まず、問題の条件や問いを正確に読み取らずに解答している。書く活動では、既習漢字を使わずに書こうとしている。
	③方策	授業や朝学習において、基礎的な漢字や語彙の定着を図るための補充問題に取り組む。問題を解く際に設問や条件に線を引き、問題の意図を捉え易いようにする。

【第4学年】

1　概要		基礎：目標値74.1%　校内平均85.1%　活用：目標値58.8%　校内平均75.0% 全ての項目で目標値を上回った。
2　課題と取組	①課題	漢字の書きについて、平均程度もしくは下回ってる問題があった。また、自分の意見を文章に書いて表現することが得意ではない。
	②原因	漢字の書きについては、決められた範囲の漢字は読み書きできるが、ランダムに出題されると弱い。自分の意見が持てても、言葉で表現し、伝えることが難しい。
	③方策	漢字学習の際に、文字の持つ意味を伝えたり、熟語集めをしたりする。話型に沿って意見を伝える機会を増やす。

【第5学年】

1　概要		基礎：目標値69.4%　校内平均74.2%　活用：目標値55.6%　校内平均69.3% 全ての領域において、目標値に達している。話すこと・聞くことの能力は定着している。
2　課題と取組	①課題	漢字を書くことが目標値を下回っている。
	②原因	ICT活用機会の増加により、漢字を書く機会が減少していると考えられる。
	③方策	朝学習を漢字の時間とし、日常的に漢字に触れる時間を設ける。 適宜小テストを実施することで、新出漢字の確実な定着を図る。

【第6学年】

1　概要		基礎：目標値61.1%　校内平均70.6%　活用：目標値50.0%　校内平均60.8% 全ての領域で目標値を上回った。
2　課題と取組	①課題	漢字を書くことが目標値を下回った。
	②原因	文章中に既習漢字を使うことの経験が少ない。また、ICT機器の使用増加によって正確に書く経験が減ってしまったと考えられる。
	③方策	計画的に漢字ミニテストを実施。確実な定着を図る。

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

教科	社会

品川区立浅間台小学校

【第4学年】

1　概要		基礎：目標値70.0%　校内平均80.1%　活用：目標値48.6%　校内平均61.3% 全ての項目において、目標値を上回った。
2　課題と取組	①課題	「市の様子の移り変わり」では、市の人口と鉄道の利用者数の変化について資料をもとに予想することが難しく、目標値-19.4%であった。
	②原因	資料を正しく使い、問いに対して言葉で説明することができない。 目的に合った資料を探すことができない。
	③方策	授業の中でも資料を用いて、そこから分かることを話し合う。また、どの資料のどの部分から分かったのか明らかにする。

【第5学年】

1　概要		基礎：目標値68.1%　校内平均81.6%　活用：目標値55.7%　校内平均74.5% 全ての領域で、目標値を上回った。
2　課題と取組	①課題	複数の資料を読み取って回答する問題の正答率が比較的低い。
	②原因	複数の資料それぞれの内容を理解し、結び付けて考える力が低い。授業の中で、一つの資料だけでなく複数の資料から考える活動をする必要があった。
	③方策	日頃の学習の中で、単一の資料を読み取ることと複数の資料を読み取ることの両方を行う。教員が説明するだけの授業ではなく、資料を主体的に読み込み、因果関係を考える活動を多く取り入れる。

【第6学年】

1　概要		基礎：目標値67.3%　校内平均77.4%　活用：目標値62.8%　校内平均73.0% 全ての領域で目標値を上回った。
2　課題と取組	①課題	資料の読み取り問題で目標値を下回った。
	②原因	資料を読み取る視点をもつこと、複数の資料を関連付ける力が低いと考えられる。
	③方策	授業内で資料を取り扱う際には、その資料から読み取れることを全体で共有する時間を取り、資料から情報を読み取る経験を重ねることで資料を読み取る視点を育む。

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

教科	算数

品川区立浅間台小学校

【第2学年】

1　概要		基礎：目標値79.6%　校内平均78.9%　活用：目標値65.7%　校内平均71.4% 基本的なたし算・ひき算の知識・技能が身に付いている。
2　課題と取組	①課題	文章問題を図で表したり式にしたりすることや、計算のしかたを説明することに課題がある。
	②原因	問題に出てきた数字だけを見て図や式にしている。計算の結果のみに注目しており、計算の過程を理解していない。
	③方策	文章問題ではテープ図を用いて視覚化し、図から立式する力を養うとともに、計算学習では手順を文章で表現させて思考の定着を図る。

【第3学年】

1　概要		基礎：目標値78.0%　校内平均73.9%　活用：目標値63.3%　校内平均57.6% 長さ・かさの問題の正答率が高い。加法の結合法則を用いた計算や、積と加法が入った計算ができていない。また、すべての設問で無回答が多い。
2　課題と取組	①課題	問題に最後まで取り組む粘り強さや、既習事項を活用して解決する力に課題がある。
	②原因	問題を読んで解決方法を考える前に諦めてしまう、または手順が分からないまま止まってしまう児童がいる。
	③方策	たし算やひき算、かけ算の計算練習に繰り返し取り組み、基礎的な計算能力を高める。また、簡単な問題から取り組み、自分なりの方法で解決を試みる姿勢を育てる。

【第4学年】

1　概要		基礎：目標値75.0%　校内平均82.9%　活用：目標値61.4%　校内平均69.7% 図形単元（円と球・三角形）以外は、目標値を上回っている。
2　課題と取組	①課題	二等辺三角形の作図についての正答率が６割、直径や半径を使って求める説明が３割を下回った。
	②原因	図形の用語や意味の理解ができていないために、無回答が１割いたり、感覚で解いてしまったりしている児童もいる。
	③方策	既習事項の復習、用語の確認をして理解を深める。作図はどうしてその方法で書けるのか説明する。

【第5学年】

1　概要		基礎：目標値64.5%　校内平均68.0%　活用：目標値57.5%　校内平均63.0% 多くの項目で目標値を上回っている。
2　課題と取組	①課題	図形領域で、目標値及び全国平均を下回った。特に、いろいろな形・面積の問題で目標値を下回った。
	②原因	分度器やコンパスを活用した作図問題が定着していない。
	③方策	図形単元を学習する際、前学年の内容に戻って復習することで、理解の漏れを防ぐ。朝学習でも、作図の復習を行う。

【第6学年】

1　概要		基礎：目標値67.3%　校内平均74.5%　活用：目標値53.8%　校内平均64.6% 全ての領域で目標値を上回った。
2　課題と取組	①課題	合同な図形の作図で目標値を大きく下回った。
	②原因	作図のための方法は知識として理解しているが、作図経験が少なく、図形を正確かつ丁寧にかく習慣が十分定着していないと考えられる。
	③方策	朝学習などを活用し、計算問題だけではなく定規やコンパスで図形をかく体験を増やす。

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

教科	理科

品川区立浅間台小学校

【第4学年】

1　概要		基礎：目標値64.5%　校内平均75.2%　活用：目標値53.8%　校内平均64.7% 全ての項目において、目標値を上回った。
2　課題と取組	①課題	「物質・エネルギー」の分野において苦手が見られ、特に「電気の通り道」では回路や電気を通すものの判断ができていなかった。
	②原因	目に見えないエネルギーなどの理解ができていなかったことが考えられる。また、磁石の実験とも混同しやすいので、違いを明確にする。
	③方策	学年が上がるにつれて、エネルギー等の学習が多くなるため、その働きを可視化して比べられるようにすることで理解を深められるようにする。

【第5学年】

1　概要		基礎：目標値65.5%　校内平均70.0%　活用：目標値41.1%　校内平均44.1% 項目別では、全12項目中４項目で目標値を下回った。
2　課題と取組	①課題	電気のはたらき、自然の中の水の項目の正答率が低い。
	②原因	乾電池の向きの違いによって電流の向きも変わること、空気中の水蒸気が結露して水になることの理解が低かった。
	③方策	どちらも視覚的に捉えにくい内容であるため、同様の項目では実験の時間を充分にとったり、動画視聴を通して理解を深めたりする。

【第6学年】

1　概要		基礎：目標値61.8%　校内平均64.2%　活用：目標値45.5%　校内平均48.3% 全ての領域で目標値を上回った。
2　課題と取組	①課題	ふりこの1往復する時間の違いが、ふりこの長さの変化によって生じたことを指摘する問題が著しく目標値を下回った。
	②原因	理由を言葉で正確に説明したりする力が不足していると考えられる。
	③方策	実験などを行う前に、なぜそう考えるのか記述したり話し合ったりする時間を増やす。また、既習内容を振り返る学習を取り入れる。

令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

教科	英語

品川区立浅間台小学校

【第６学年】

1　概要		基礎：目標値79.7%　校内平均84.5%　活用：目標値72.5%　校内平均73.0% 全ての領域で目標値を上回った。
2　課題と取組	①課題	英作文の問題で目標値を下回った。
	②原因	単語の読み、意味理解の正答率は高いが、文章を書くことに結びついていない。 英作文を書く経験が少なかったと考えられる。
	③方策	正しいフレーズで話す活動や聞く活動を多く設定し、文章を書く活動を増やしていく。